

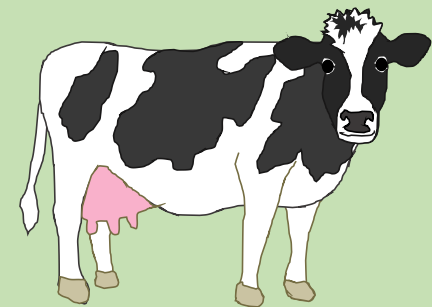
## ④ そして、牧場だあ

牧場がある。名前は「OK牧場」。

大高村高原牧場が代替わりしてこの名前に改めた。

畠山さんの妹の嫁ぎ先がOK牧場で、相談を持ちかけられた畠山さんがその相談を春田さんに丸投げしてきた。

今、OK牧場は牛を飼っているが、ダチョウにも手を広げたいという。まずは試しに数羽飼うことにした。

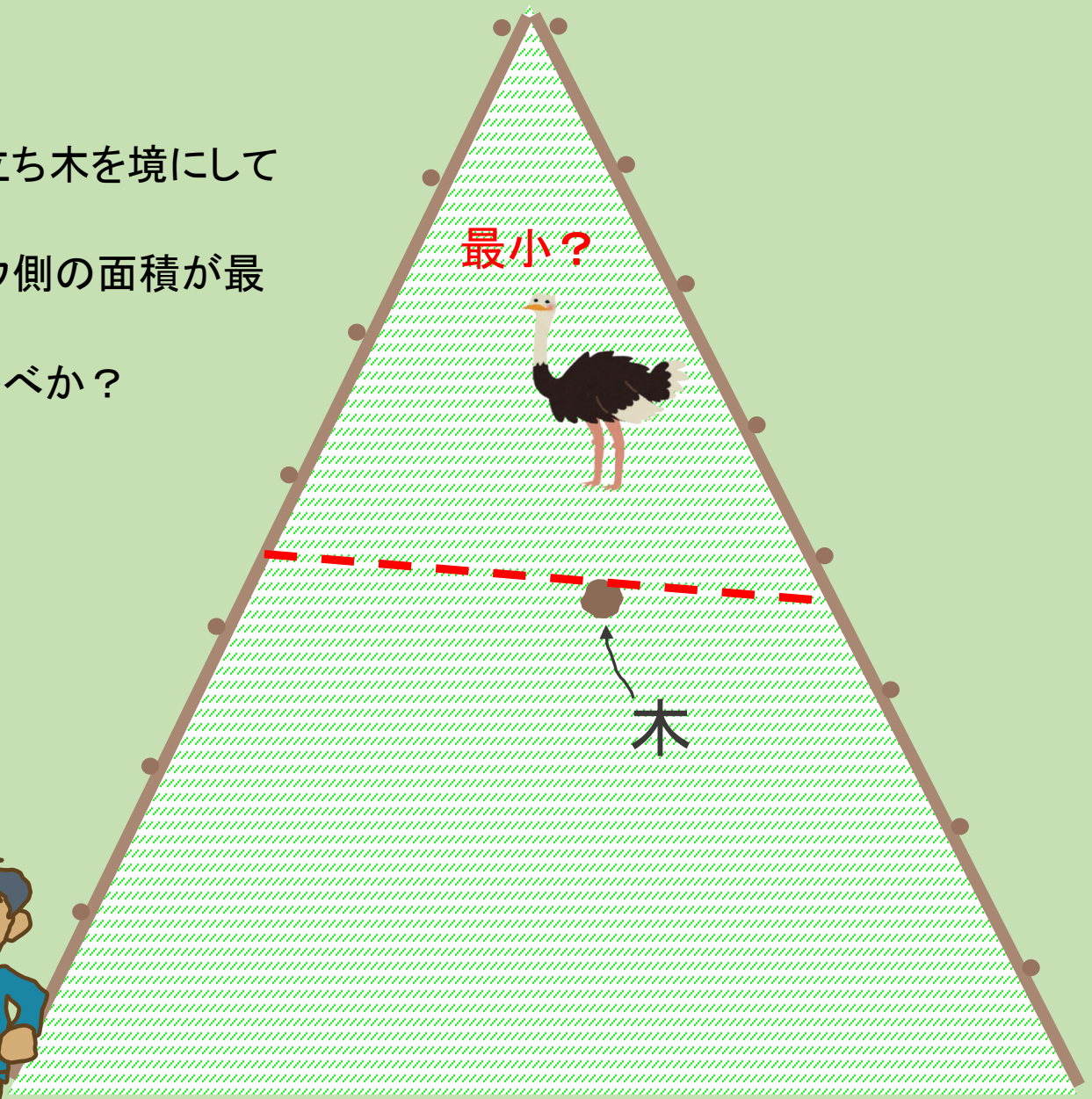


絵の放牧柵の角をダチョウ用にして、立ち木を境にして直線の柵で仕切りたい。

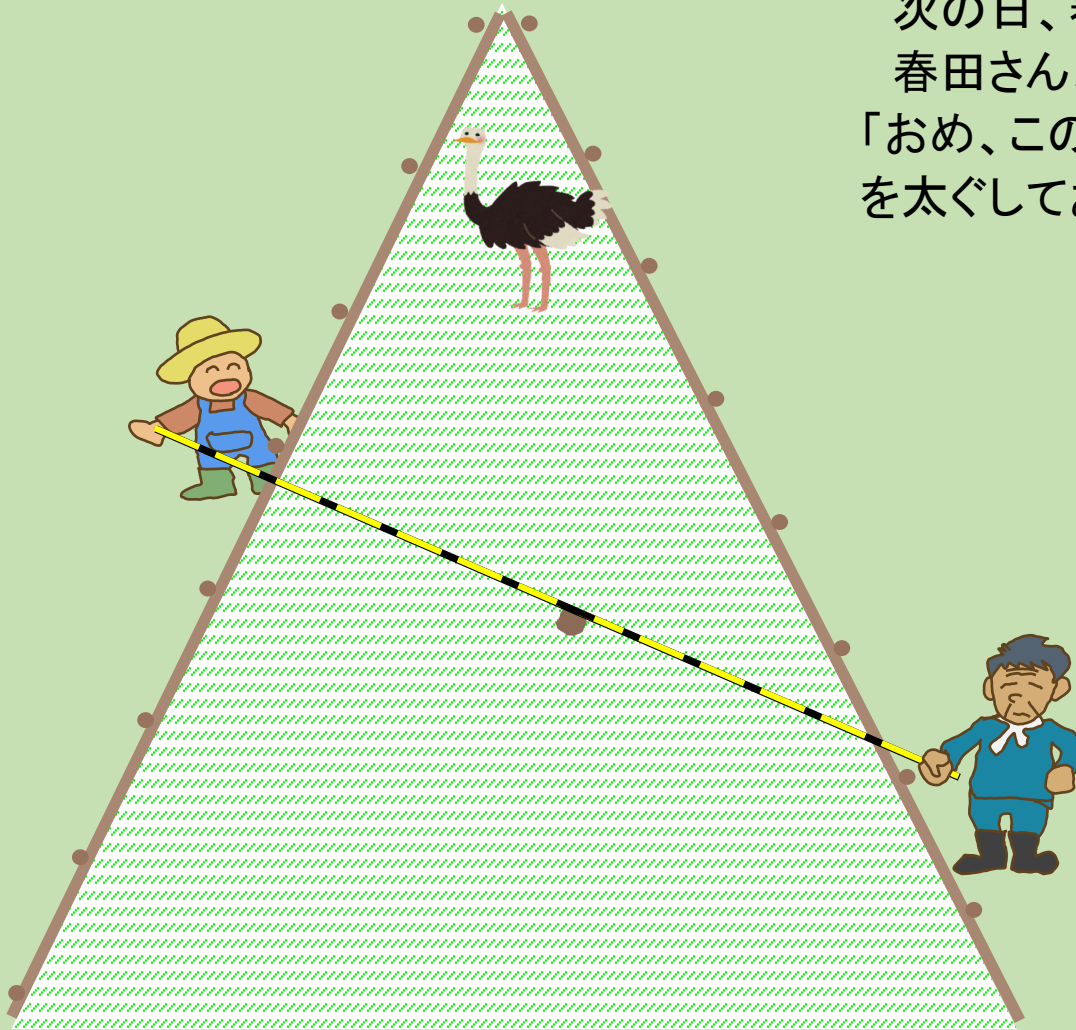
牛にストレスがかからないよう、ダチョウ側の面積が最小になるようにしたい、とのこと。

さて、どのように柵をかければいいだんべか？

さて、春田さん、考えた。  
『また、寸法がわからねえときたか・・・』



次の日、春田さんはOK牧場に畠山さん呼びつけた。  
春田さん、柵の前で畠山さんにいった。  
「おめ、このロープに、等間隔に印をつけろ。真ん中の印を太くしておけ」



そして春田さん、できたロープのはじを持ち、もう一方のはじを畠山さんに持たせて柵の反対側に回らせた。  
「真ん中の印が木にあたるようにしてピンと張れ。柵と柵のちょうど真ん中に木がくるところを探せ」

「こんなもんだな。この線にそって柵さ、こしらえろ」  
と春田さん。  
なんと、もう答えが出たようだ。

「おれ、わかんねっけ、説明してけろ」  
畠山さんは春田さんに聞いた。  
春田さんの説明は、こういうことだった。

絵で説明すると、赤い線が、木がちょうど真ん中にくる線だあ。

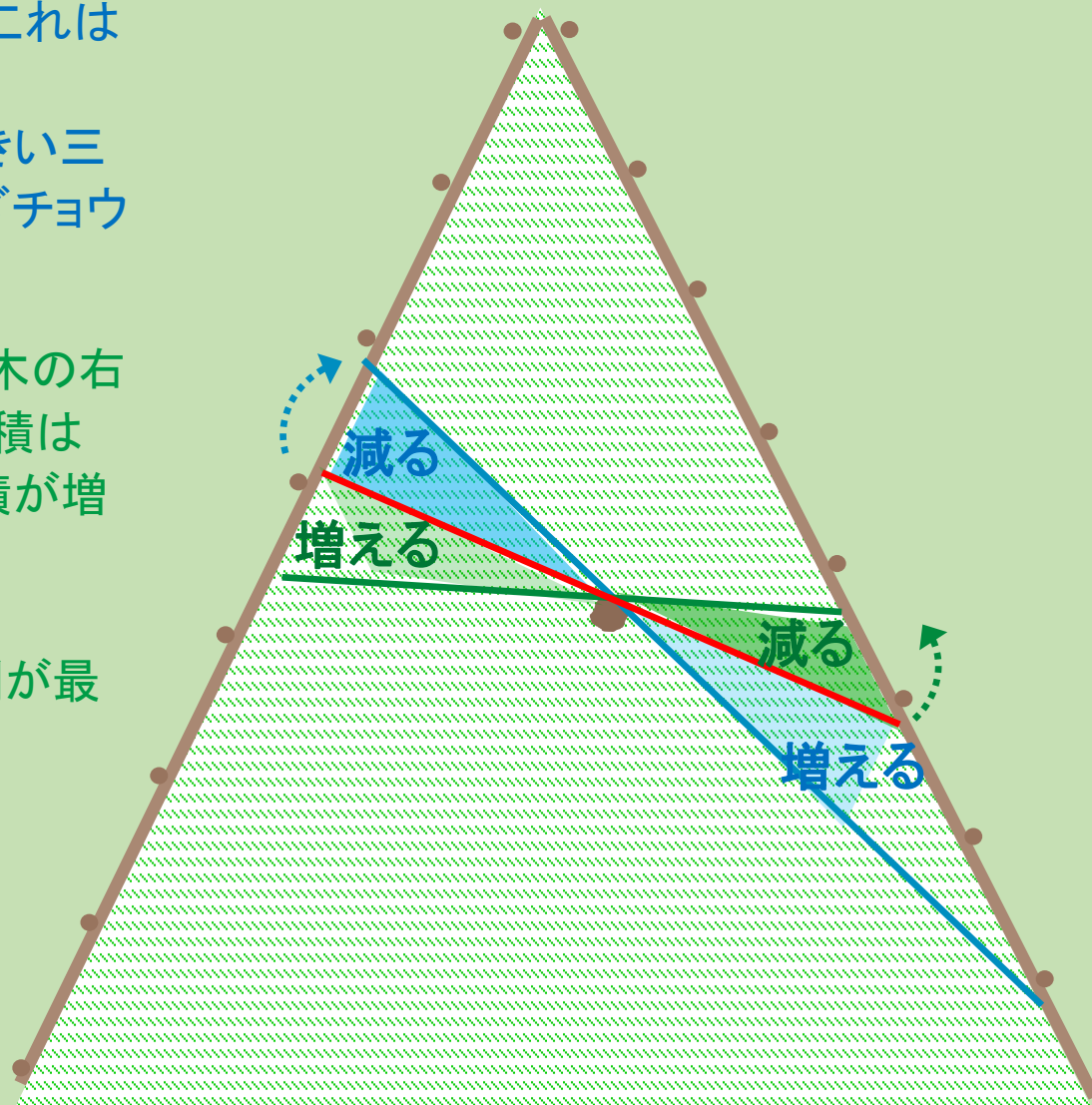
この線を、木を中心に時計回りに少しだけ回してみると、木の左側に青い三角形ができるな。これは線を回したことで減るダチョウ側の面積だあ。

そのかわり、木の右側にできるそれより大きい三角形の分だけダチョウ側が増える。つまり、ダチョウ側が広くなる。

反対に、赤い線を反時計回りに回したとき、木の右側にできる緑の三角形の分だけダチョウの面積は減るけんども、反対側ではそれより大きい面積が増える。

やっぱりダチョウ側が広くなる、ということ。  
つまり、赤い線で仕切ったときが、ダチョウ側が最小ってことだあ。

「合点がいった！」  
と畠山さん。



なして最小？



「ダチョウはナスさ食うんだべか？」  
「けっぽられるっけ、気いつけれえ」

